

分科会報告 ⑤-1

1. コーディネーター 小野葉子

2. テーマ

「この人生で果たしたいこと・仕事」

3. 参加者数 9名

宮城県 5名 山形県 3名 福島県 1名(1名欠席)

4. ディスカッション内容

はじめに

最初に自己紹介とこのテーマを選んだ理由を話していただきました。

参加者の方は大学生が2名、お一人は米農家で風評被害にあったが、コメを買っていただいたので、恩返しをしてゆきたいとのことでした。もうお一人は将来ブライダル関係に進みたいとのことでした。また女性に少ない広告の営業をなさっていて、もっとコミュニケーション力を高めたいと参加なさった方、それからまず自分が幸せになって、周りを幸せにしてゆきたいと自己啓発セミナーを開催なさっている方、またご自分のつらい体験を乗り越えて、セラピストのほかに、金融、アロマ、エステ、男女共同参画委員など多彩な方面で活躍なさっている方。震災後スクールボランティアをする傍らオーケストラでコンサートをしている方、ブライコンサルタントとして、企業や個人のカウンセラーをしているかた、会津でタウン誌をつくっていらっしゃる傍ら、町の活性化を目的として、「ときめく街づくり」をテーマにパフォーマンスショーを企画・開催しているかたなど多彩な職種の方々がそれぞれの体験から味わい深いお話しがなされました。

まとめ

タウン誌づくりをなさっている方は、これこそが天職と楽しそうに話して下さったのが心に残りました。スクールボランティアをなさっている方は4月から小学校教員に復帰し、第4の人生を生きてゆくとのことでした。

またカウンセラー、セラピスト、自己啓発セミナー講師など名称は違いますが、人が幸せに生きるためのお手伝いをしている方々が半数近くいらっしゃったのが印象的でした。

そして、若い方々へは、「失敗を恐れないこと」「人生に無駄なことはない」「行動をまず起こすこと、海外旅行などにどんどん行ってみることなど」「そうだったとしても、こうもできる、あーもできると過去思考を越えて、可能性を広げて考えてゆくことが大切」「生かされていることに気づいてゆこう」などの言葉かけがありました。

最後に、「生まれてきてよかった。この人生でよかった、自分はこれがしくて生まれてきたのだ、とあなたでなければ果たせない人生を生き活きと生きていただきたいと願っております」という言葉で締めくくらせていただきました。